

マ  
ラ  
キ  
書

第一章 「マラキによつてイスラエルに臨んだ  
主の言葉の託宣。」

「主は言われる、「わたしはあなたがたを愛した」と。  
ところがあなたがたは言う、「あなたはどんなふう  
に、われわれを愛されたか」。主は言われる、「エサウはヤコブ  
の兄ではないか。しかしわたしはヤコブを愛し、  
エサウを憎んだ。かつ、わたしは彼の山地を荒し、その嗣業  
を荒野の山犬に与えた」。もしエドムが「われわれは滅  
ぼされたけれども、荒れた所を再び建てる」と言うなら  
ば、万軍の主は「彼らは建てるかもしれない。しかしわ  
たしはそれを倒す。人々は、彼らを悪しき国となえ、  
とこしえに主の怒りをうける民となえ」と言われる。  
五 あなたがたの目はこれを見て、「主はイスラエルの境を  
越えて大いなる神である」と言うであらう。  
六 子はその父を敬い、しもべはその主人を敬う。それ  
でわたしはもし父であるならば、あなたがたのわたしを  
敬う事実が、どこにあるか。わたしがもし主人であるな  
らば、わたしを恐れる事実が、どこにあるか。わたしの  
名を侮る祭司たちよ、と万軍の主はあなたがたに言われ  
る。ところがあなたがたは『われわれはどんなふうにあ

なたの名を侮ったか』と言ひ、七 汚れた食物をわたしの  
祭壇の上にささげる。またあなたがたは、主の台は卑し  
むべき物であると考えて、『われわれはどんなふう  
に、それを汚したか』と言ひ。八 あなたがたが盲目の獣を、犠  
牲にささげるのは悪い事ではないか。また足のなえたも  
の、病めるものをささげるのは悪い事ではないか。今こ  
れをあなたがたのつかさにささげてみよ。彼はあなたがたを喜び、  
あなたがたを受け入れるであらうかと、万軍の主は言われ  
る。九 あなたがたは、神がわれわれをあわれまれるよう  
に、神の恵みを求めてみよ。このようなあなたがたの手  
のささげ物をもって、彼はあなたがたを受け入れられる  
であらうかと、万軍の主は言われる。一〇 あなたがたがわ  
が祭壇の上にいたずらに、火をたくことのないように  
戸を閉じる者があなたがたのうちに、ひとりあったら  
いのだが。わたしはあなたがたを喜ばない、またあなたが  
たの手からささげ物を受けないと、万軍の主は言われ  
る。二日の出る所から没する所まで、国々のうちにわが  
名はあがめられている。また、どこでも香と清いささげ  
物が、わが名のためにささげられる。これはわが名が国  
のうちにあがめられているからであると、万軍の主は  
言われる。三 ところがあなたがたは、主の台は汚れてい  
る、またこの食物は卑しむべき物であると言ひ、これ  
を汚した。四 あなたがたはまた『これはなんと煩わしい  
事か』と言ひ、わたしを鼻であしらうと、万軍の主は

言われる。あなたがたはまた奪った物、足なえのもの、病めるものを、ささげ物として携えて来る。わたしはそれを、あなたがたの手から、受けるであろうかと主は言われる。二群れのうちに雄の獣があり、それをささげると誓いを立てているのに、傷のあるものを、主にささげる偽り者はのろわれる。わたしは大いなる王で、わが名は国々のうちに恐れられるべきであると、万軍の主は言われる。

## 第二章

一祭司たちよ、今この命令があなたが

たに与えられる。二万軍の主は言われる、あなたがたがもし聞き従わず、またこれを心に留めず、わが名に栄光を帰さないならば、わたしはあなたがたの上に、のろいを送り、またあなたがたの祝福をのろいに変える。あなたがたは、これを心に留めないで、わたしはすでにこれをのろった。三見よ、わたしはあなたがたの子孫を責める。またあなたがたの犠牲の糞を、あなたがたの顔の上にまき散らし、あなたがたをわたしの前から退ける。四こうしてわたしが、この命令をあなたがたに与えたのは、レビと結んだわが契約が、保たれるためであることを、あなたがたが知るためであると、万軍の主は言われる。五彼と結んだわが契約は、生命と平安との契約であって、わたしがこれを彼に与えたのは、彼にわたしを恐れさせるためである。彼はすでにわたしを恐れ、わが名の前におののいた。六彼の口には、まことの律法があ

り、そのくちびるには、不義が見られなかった。彼は平安と公義とをもって、わたしと共に歩み、また多くの人を不義から立ち返らせた。七祭司のくちびるは知識を保ち、人々が彼の口から律法を尋ねるのが当然である。彼は万軍の主の使者だからだ。八ところが、あなたがたは道を離れ、多くの人を教えてつまずかせ、レビの契約を破ったと、万軍の主は言われる。九あなたがたはわたしの道を守らず、律法を教えるに当って、人にかたよったがために、あなたがたをすべての民の前に侮られ、卑しめられるようにする。

一〇われわれの父は皆一つではないか。われわれを造った神は一つではないか。なにゆえ、われわれは先祖たちの契約を破って、おのおのその兄弟に偽りを行うのか。一二エダは偽りを行い、イスラエルおよびエルサレムの中には憎むべき事が行われた。すなわちエダは主が愛しておられる聖所を汚して、他の神に仕える女をめとった。三どうか、主がこうした事を行う人をば、証言する者も、答弁する者も、また万軍の主にささげ物をする者をも、ヤコブの幕屋から断たれるように。

三あなたがたはまたこのような事をする。すなわち神がもはやささげ物をかえりみず、またこれをあなたがたの手から、喜んで受けられないために、あなたがたは涙と、泣くことと、嘆きとをもって、主の祭壇をおおい、二「なぜ神は受けられないのか」と尋ねる。これは主が

あなたと、あなたの若い時の妻との間の、契約の証人だったからである。彼女は、あなたの連れ合い、契約によるあなたの妻であるのに、あなたは彼女を裏切った。一五一つ神は、われわれのために命の霊を造り、これをささえられたではないか。彼は何を望まれるか。神を敬う子孫であるゆえ、あなたがたはみずから慎んで、その若い時の妻を裏切つてはならない。一六イスラエルの神、主は言われる、「わたしは離縁する者を憎み、また、しえたげをもってその衣をおおう人を憎むと、万軍の主は言われる。ゆえにみずから慎んで、裏切ることをしてはならない」。

一七あなたがたは言葉をもって主を煩わした。しかしあなたがたは言う、「われわれはどんなふうにも、彼を煩わしたか」。それはあなたがたが「すべて悪を行う者は主の目に良く見え、かつ彼に喜ばれる」と言い、また「さばきを行う神はどこにあるか」と言うからである。

第三章 「見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると、万軍の主が言われる。二その来る日には、だれが耐え得よう。そのあらわれる時には、だれが立ち得よう。

彼は金をふきわけける者の火のようであり、布さらしの灰汁のようである。三彼は銀をふきわけて清める者のよ

うに座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる。四その時ユダとエルサレムとのささげ物は、昔の日のように、また先の年のように主に喜ばれる。

五そしてわたしはあなたがたに近づいて、さばきをなし、占い者、姦淫を行う者、偽りの誓いをなす者にむかい、雇人の賃銀をかすめ、やもめと、みなしごとをしえたげ、寄留の他国人を押しつけ、わたしを恐れない者どもにむかつて、すみやかにあかしを立てると、万軍の主は言われる。

六主なるわたしは変わることがない。それゆえ、ヤコブの子らよ、あなたがたは滅ばされない。七あなたがたは、その先祖の日から、わが定めを離れて、これを守らなかつた。わたしに帰れ、わたしはあなたがたに帰ろうと、万軍の主は言われる。ところが、あなたがたは『われわれはどうして帰ろうか』と尋ねる。八人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。九あなたがたは、のろいをもって、のろわれる。あなたがたすべての国民は、わたしの物を盗んでいるからである。一〇わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、



あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。二わたしは食い滅ぼす者を、あなたがたのためにおさえて、あなたがたの地の産物を、滅ぼさないようにしよう。また、あなたがたのぶどうの木が、その熟する前に、その実を畑に落すことのないようにしよう、万軍の主は言われる。三こうして万国の人は、あなたがたを祝福された者となえるであらう。あなたがたは楽しい地となるからであると、万軍の主は言われる。

三主は言われる、あなたがたは言葉を激しくして、わたしに逆らった。しかもあなたがたは『われわれはあなたに逆らって、どんな事を言ったか』と言う。四あなたがたは言った、『神に仕える事はつまらない。われわれがその命令を守り、かつ万軍の主の前に、悲しんで歩いたからといって、なんの益があるか。五今われわれは高ぶる者を、祝福された者と思う。悪を行う者は栄えるばかりでなく、神を試みても罰せられない』。

一六そのとき、主を恐れる者は互に語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書が生じられた。一七万軍の主は言われる、彼らはわたしの手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたし

の宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。一八その時あなたがたは、再び義人と悪人、神に仕える者と、仕えない者との区別を知るようになる。

#### 第四章

一万軍の主は言われる、見よ、炉のように燃える日が来る。その時すべて高ぶる者と、悪を行う者とは、わらのようになる。その来る日は、彼らを焼き尽して、根も枝も残さない。二しかしわが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている。あなたがたは牛舎から出る子牛のよう、外に出て、とびはねる。三また、あなたがたは悪人を踏みつけ、わたしが事を行う日に、彼らはあなたがたの足の裏の下にあつて、灰のようになる、万軍の主は言われる。

四あなたがたは、わがしもべモーセの律法、すなわちわたしがホレブで、イスラエル全体のために、彼に命じた定めとおきてとを覚えよ。

五見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。六彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。